

折々の記 No273： 年平均 220 冊強！

(令和 3 年 1 月 17 日記)

本日一冊の本を読了し、エクセル管理の読書歴に記録した。2012 年 1 月 20 日即ち第二の定年を迎えた翌年から、読了した本の年月日と書名、著者を記録始めてから 9 年になった。

この間に読了した本は 2043 冊である。年平均すると 220 冊だ。
幾つかの所見を記述する。

1 読書傾向

先ず、ジャンル別には、推理（探偵）・警察小説、日本及び支那の歴史・時代小説、大東亜戦争に関する本（この一年位ではあるが・・・）が主力だ。偏っていると云えば偏ってはいるが・・・更に言えば、特定作家の本・シリーズに集中しているということだ。

2 作家別ランキング

2000 冊のうち、10 冊以上読了した作家は、38 氏である。

三傑は、今野敏氏の 49 冊、葉室麟氏の 42 冊、北方健三氏の 40 冊である。

30 冊台：東野圭吾、伊藤潤、堂場瞬一、楡周平の 4 氏であり、20 冊台が、坂岡真、上田秀人、森村誠一、内田康夫、藤井邦夫、宮城谷昌光の各氏である。

最も、読書歴をつける以前から、宮城谷昌光氏、塩野七海氏、池井戸潤氏の本は結構読んでいたので、ランクが上昇するものと思う。

このランキングは更なる 2～3 年で変化するだろう。

- 3 新書や文庫本ならば一日一冊、ハードカバーでも二日あれば読破できた。然しながら、フォントの小さい本は矢張り読みにくいし、それだけ時間がかかる。また、ジムでウォーキングしつつの読書も上手くなった。
- 4 分厚すぎる本も疲れる。数百ページの本には流石に疲れた。
- 5 記録を見てみると中には「中断」と記したものが幾つかある。表現・言い回しがくどかったり、変に心理描写が濃厚すぎ、巧緻過ぎ、或いは物語の展開が遅すぎる等の理由だったと思う。相応のテンポのある本が読み易い。
- 6 速読、小生の場合は、即ち斜め読みだが、小生の理解が追い付かないものは矢張り駄目だ。
- 7 外国の作家の本は最近では登場人物の名前を容易に覚えられないので殆ど読んでいない。同様の意味で、登場人物が多すぎ、複雑すぎるのも面倒で嫌になる。
- 8 大量の本を読めるのは市の図書館の資料検索・予約がネットで簡単にできるからであり、有り難いことである。
- 9 読み進めている内に、「はて読んだことがあったような気がする。それとも TV 番組だったか」と思うことがままある。読書歴でチェックする矢張り読了していたという結果となる。意外に記憶に残っているものだ。
- 10 本を沢山読んだから、利口になったという訳ではないことは確かだ。唯、認知症予防にはなっているだろうし、抑々認知機能が低下したら本を読む気もしないのだろう。
- 11 家内には、本がそんなに面白いかと呆れられもするのだが、・・・。今後もこのペースで読めるのか？
- 12 新人作家の作品はまだ少ないが、これから読む機会もあろう。
- 13 ジャンルを広げることも必要か？さりとて、今更新たなことに挑戦するのも無理だろうが...
- 14 ネット社会なるが故に、読書人口が少なくなり、本屋も倒産するという。読書の楽しみと効用を知るべきだ。そういう意味では現在の世相は残念だ。

(了)